令和６年度
洲本市　認知症地域支援推進員活動報告

認知症地域支援推進員について

１　認知症地域支援推進員：2名

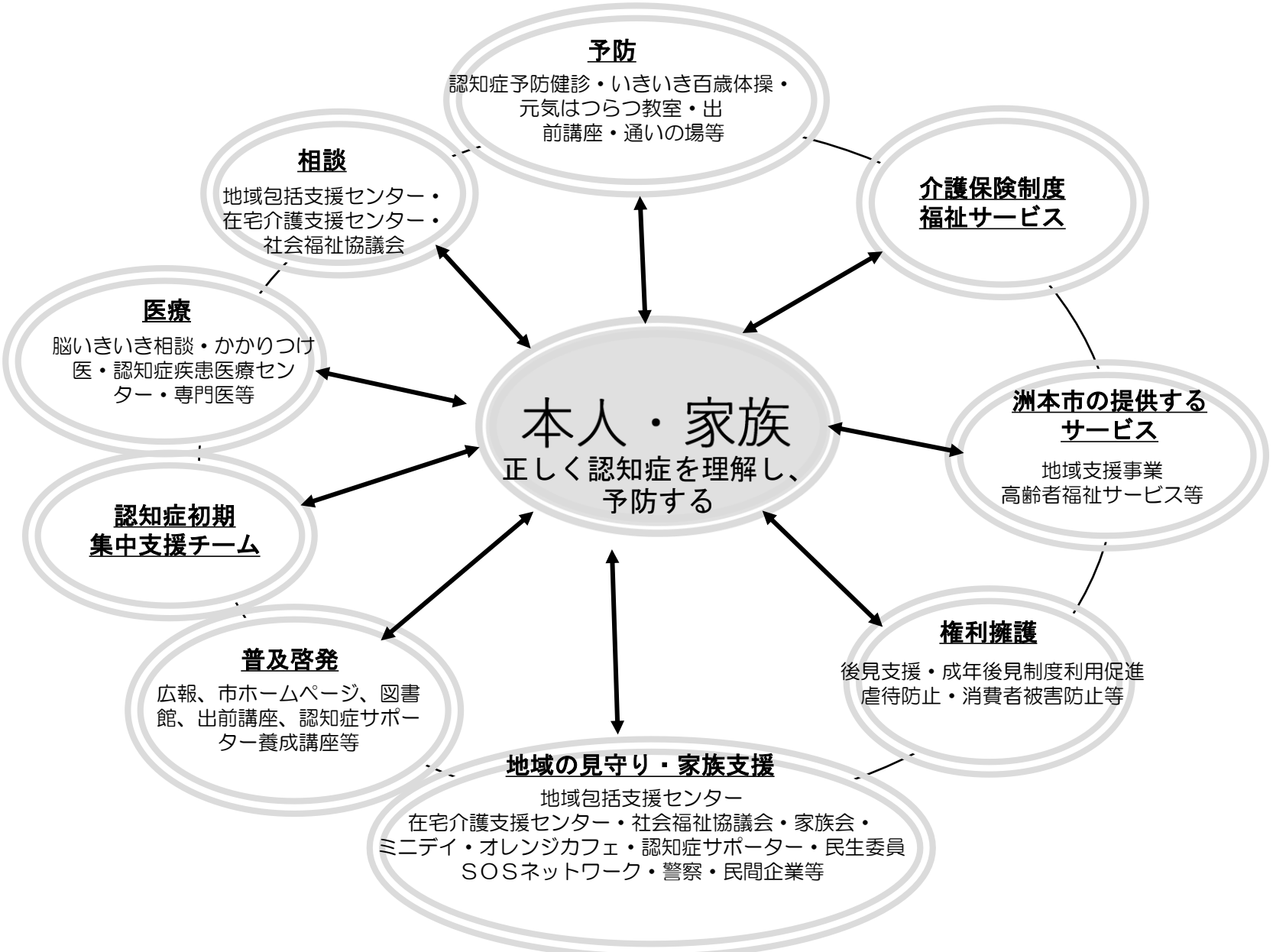
２　認知症地域支援推進員の役割

共生と予防の観点から、認知症予防・早期発見の推進とともに、認知症地域支援ネットワークの強化、家族介護者の支援

- すもとオレンジライフサポート（認知症ケアパス）の普及啓発
- 認知症の相談窓口の普及啓発
- 認知症初期集中支援チームによるサポート
- 医療・介護との連携の推進
- 本人・家族支援
- 認知症地域支援ネットワークの強化

報告者氏名:洲本市地域包括支援センター　：岡田　香苗、佐々木　枝里
洲本市介護福祉課長寿支援係長　：村崎　千昌

洲本市　認知症施策全体図



テーマ：洲本市における認知症予防の推進について

洲本市の現状と課題

＜現状＞
①認知症に対する悪いイメージを持つ人が多い。
②認知症に関する相談窓口の認知度が低い。
③新型コロナウイルス流行時の外出自粛、近隣や別居家族とのつながりの希薄化により早めの気づきが減少。

＜課題＞
①早期相談につながりにくいため、身寄りのない独居高齢者や８０５０問題・高齢者虐待・金銭管理等、認知症高齢者が絡んで問題が複雑化している。
②広く認知症の正しい理解の普及啓発及び予防に重点をおいた地域づくりの推進の必要がある。

認知症予防「脳の健康度チェック事業」事業の背景

認知症が重症化してからの相談対応や既存の施策推進等追われる日々の中、

＜推進員の思い①＞
認知症に対して正しく理解し、予防できる人を増やしていきたい！

＜推進員の思い②＞
早めに相談につながることで、今できることを一緒に考えたい！

「脳の健康度チェック事業」に取り組んでいる先進事例の情報提供あり

認知症の正しい理解の普及啓発、早期対応、早期支援を進めていくきっかけ作りに取り組んでみよう

令和6年度　活動経過

①地域ケア会議（医療介護連携部会）：令和6年7月、令和7年1月

認知症の最新治療について情報共有、市の現状や課題の共有。

②課内で検討：地域包括支援センター・長寿支援係

目的の共有、対象者、周知・案内方法、予算の確保、実施方法・フォロー方法等検討。

③市役所内他課との調整

目的・事業概要の共有、対象者（特定健診受診者）名簿提供について

④医師会等関係機関との調整

淡路島MCI診療を考える会（医師会・エーザイ共催）で現状と課題の共有、早期の段階でかかりつけ医との連携・協力について依頼。

令和7年度実施「脳の健康度チェック事業」の概要

目　的

高齢者が脳の健康や認知症について理解を深め、生活習慣を意識する機会をつくる。また認知機能等にリスクを抱える高齢者に対し早期対応に向けた支援体制を構築する。

対象者

市の特定健診受診者で年度末年齢70～74歳のうち、脳の健康チェックを希望する者。予定人数50人。

事業概要

①対象者に個別通知。
②ノートパソコン等を使った認知症の簡易検査を実施、健診結果等用いて、脳の健康に良い生活習慣について情報提供。
③検査の結果、必要な方は相談窓口の紹介、医療機関、介護保険等サービス、地域の社会資源等へつなぐ。

最後に・・・

「脳の健康度チェック事業」及び既存の事業を通して、健康な時から体と脳の健康に関心を持ち予防に取り組む人が増えることで、認知症になっても安心して自分らしく過ごせる地域づくりに向けて1歩ずつ進めていきたいと思います。